

2020年7月29日(水)第5水曜祈祷会

ルカの福音書12:35~48

「いつ来てもよいように」

■主の再臨に備えなさい

- ①「腰に帯を閉めなさい」…当時のユダヤ人の服装。裾をたくし上げる。
- ②「明かりをともしていなさい」…主人が帰ってきたとき、直ぐに行動できるように。

■12:35~48の全体概要

- ①婚礼から帰ってくる主人を待つしもべについて(35-40)…目を覚ましていることに重点
— ペテロの質問(41) —
- ②全財産を任された管理人について(42-48)…「忠実」であることに重点
- ③厳しい刑罰が詳しく語られる(47, 48)

■「婚礼から帰ってくる主人を待つしもべ」のたとえ * 当時の婚礼は一週間かかることもあった

- ①一般のキリスト者への忠告
- ②目を覚ましておきなさい…単に起きているだけではない、眠らないように注意している
- ③二つの理由
 - ・主人自らしもべに給仕してくれるという驚くべき祝福がある(ヨハネ13:1~)
 - ・主人がいつ帰ってくるか誰にも分からないから(泥棒の譬え、思いがけない時)

■「全財産を任された管理人」について

- ①管理役のキリスト者への忠告 * 管理役…みことばの「食べ物」を神の家族に与える者のこと
- ②主人は自分の全財産を任せるようになる
- ③二つの勧めと戒め
 - ・思慮深くあること○ 「主人の帰りは遅くなる」…×
 - ・忠実であること○ 「召使をたたき、酒に酔う」…×

■厳しい刑罰が詳しく語られる

- ①主人の思いを知りながらも用意をしなかった
- ②多くを与えられた者は多くを求められる…主の心を知る(知らない)
- ③多くを任された者はさらに多くを要求される

◎まとめ:「いつ来てもよいように」

- ・忠実な者と不忠実な者、思慮深い者と思慮の浅い者
- ・誰の目にも明らかになるのが主の再臨の時